

㊦ 慢性前立腺炎(慢性骨盤疼痛症候群)に対するセルニチンポーレンエキスと漢方薬の治療効果

石井クリニック・浦和¹⁾、JCHO 埼玉メディカルセンター²⁾
獨協医科大学・埼玉医療センター³⁾、三井記念病院⁴⁾
東京慈恵会医科大学⁵⁾

石井 泰憲¹⁾、加藤 温²⁾、大野 修一²⁾
高橋 真太郎²⁾、小堀 善友³⁾、杉原 由利子⁴⁾
佐野 貴之⁵⁾、鯉坂 志乃⁵⁾、石井 元⁵⁾

【目的】

慢性前立腺炎(慢性骨盤疼痛症候群)の治療で、セルニチンポーレンエキスに竜胆瀉肝湯の追加併用の検討。

【方法】

2013年1月から2018年10月までに慢性前立腺炎(慢性骨盤疼痛症候群)279例をセルニチンポーレンエキス投与で加療。2週間以上通院し、前後の慢性前立腺症状スコア(NIH-CPSI)がチェックできたのは125例。このうち、セルニチンポーレンエキスの効果に満足しない45例に竜胆瀉肝湯を追加併用。《セルニチンポーレンエキス単独投与群53例》と《セルニチンポーレンエキスと竜胆瀉肝湯の追加併用群29例》の効果を比較判定。

【成績】

長時間座位で悪化する慢性骨盤疼痛症候群(慢性前立、腺炎)の治療では、竜胆瀉肝湯の併用はセルニチンポーレンエキス単独より慢性前立腺症状スコア(NIH-CPSI)を低下させ、効果が増強していた。疼痛・不快感スコア、排尿スコア、QOLスコアのすべての改善例が多く、部位では会陰部～尿道部と下腹部の疼痛・不快感スコアが改善されていた。

【結論】

症状の完全消失は困難だが、竜胆瀉肝湯の追加併用はセルニチンポーレンエキス単独より日常生活に不快感ない位スコアを低下させる改善例も多く、竜胆瀉肝湯の追加併用は有用だと考えられた。